



スーパークリーンルーム 産学官連携研究棟竣工記念式典

「スーパークリーンルーム産学官連携研究棟」が、平成14年3月末、つくばセンター西事業所内に完成しました。この竣工を記念して、6月17日（月）同施設において竣工記念式典が挙行されました。

式典は、吉川理事長の開催の挨拶に続いて、ご来賓の大島経済産業副大臣、谷口社団法人電子情報技術産業協会会長によるご挨拶、廣瀬次世代半導体研究センター長による「産総研における半導体研究」の概要説明が行われ、スーパークリーンルーム見学の後、場所を移して懇親会が開かれました。

本研究棟は経済産業省の出資に基づ

くもので、3,000m²のスーパークリーンルーム（クラス3）および1,500m²の研究クリーンルーム（クラス5）から成り、研究用のクリーンルームとしては世界トップクラスを誇っています。ここでは、400名を超える人員が集結して、次々世代半導体のための新材料・新材料プロセス・デバイス技術・計測技術の研究開発を行う「半導体MIRAIプロジェクト」、高効率・省エネ多品種変量生産向き半導体製造システムの開発を行う「HALCAプロジェクト」、次世代半導体のための新材料・トータルプロセス技術の開発を行う「あすかプロジェクト」の3つの最先端半導体研究



大島経済産業副大臣



スーパークリーンルーム（クラス3）

開発プロジェクトが連携して研究開発を行います。



グリッド協議会を設立

6月17日（月）、東京ダイヤモンドホテルにおいて、「グリッド協議会設立総会」が行われ、本協議会が発足しました。

本協議会は、国内のグリッド技術に関わる産業、学術分野の専門家が一堂に会し、情報交流および人的交流を行うことを目的として設立されたもので、日本を含めた世界各地に設立されているグリッド関連の標準化組織、推進啓蒙組織、およびそこに参加する企業等と協力して、最新のグリッド技術情報を共有することにより国際標準化

に寄与し、グリッドに関する要素技術および利用技術の普及・啓蒙に取り組んで行くことを目指しています。

設立総会では、役員および運営委員の承認と挨拶の後、本協議会関口智嗣会長（産総研グリッド研究センター長）から事業計画および14年度活動計画と予算案について説明があり、それぞれ承認されました。

引き続き開かれた記念講演会では、関口会長による「グリッド協議会の紹介」、富士通株式会社三浦謙一氏による「日本におけるグリッド関連技術の



左から、中田登志之副会長（日本電気株式会社）、関口智嗣会長（産総研）、姫野龍太郎副会長（理化学研究所）

展望」と題した基調講演、IBM米国本社 Jeffrey Nick 氏による「Open Grid Services Architecture: Framework for commercial grids」と題した招待講演があり、203名の来聴者を得て盛会のうちに終了しました。



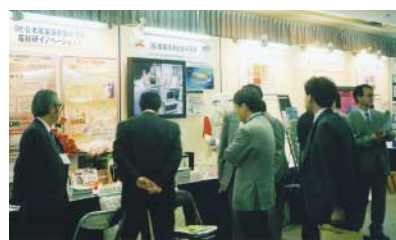
第1回産学官連携推進会議

6月15日（土）、16日（日）の両日、国立京都国際会館において第1回産学官連携推進会議（主催：内閣府、日本経済団体連合会、日本学術会議）が開催されました。

会議には、産学官連携に取り組む

リーダーや実務者3,600人が参加し、講演やパネルディスカッションを行うとともに、研究機関等による研究成果の展示とプレゼンテーションも併せて実施されました。

産総研からは筋電義手、高分子アク



チュエータ、ビズウェアの3点を出展した他、産総研イノベーションズから酸化チタン光触媒の出展も行いました。



ものづくり先端技術研究センターオープンハウス

6月20日(木)午後、ものづくり先端技術研究センターは、平成13年度から実施している中小企業庁・NEDOプロジェクト「ものづくり・IT融合化推進技術の研究開発」の推進状況を一般公開しました。

本プロジェクトは、①加工全般にわたる技能の技術化に関する研究開発、②設計・製造支援アプリケーションのためのプラットフォームの研究開発からなり、機械部品の加工に関わる技能をデジタル化し、デジタル技能の企業間利用並びに独自の作り込み・進化が可能な「インターネット加工技術ハンドブック」を構築します。さらに、利

用者自らが改善可能な設計・製造支援プラットフォームを開発し、加工技術ハンドブックを実装して、コンポーネントベースの設計基盤の実用性を検証します。

オープンハウスでは166名の参加者があり、プロジェクト概要および研究設備の紹介を行いました。データベースの性格、プラットフォームの利用形態等に高い関心を寄せる多くの方と主催者との間で熱心な討論が行われました。当日のアンケートには、高レベルデータベースの必要性、データベース検索手法の開発、データベース構築のための技能要素分析の重要性、高付加



価値ものづくりへのターゲットの絞り込みなどについてコメントがありました。本プロジェクトは、実用性と先進性との両立という課題を掲げていますが、産業界のニーズと期待とを実感し、これまでの研究開発方針に確信を深めるとともに、本プロジェクトの目標達成への責務の念を新たにしました。



モノづくりワールド2002名古屋

6月12日(水)～15日(土)の4日間にわたり、ポートメッセなごやにおいて、日本の「モノづくり」の基盤を強化し、一層の発展を期することを目的として「生産システムのトータルマネージメントをサポートする」をテーマに、「モノづくりワールド2002名古屋-製造技術総合展」が開催されました。産総研では、中部センターに拠点を

置く研究ユニットの紹介を中心に広報活動を行いました。

セラミックス研究部門からは、企業との共同研究により商品化された技術として、「光触媒」と「調湿建材」の2テーマを、基礎素材研究部門からは、今後製品化に結びつくと思われる最新の技術として、「選択型熱放射材料」と「廃タイヤリサイクル技術」の2テーマを、



パネル、サンプル、デモンストレーション等で紹介しました。

期間中は、多数の来場者が産総研ブースを訪れ、それぞれの説明に対し熱心に聞き入る姿が見られました。



地質調査総合センター記念講演会

<http://www.aist.go.jp/GSJ/Info/event/2002/kinen/kinen.html>

6月7日(金)、東京の明治記念館において、産総研「地質の調査」分野の総括的な実施体である地質調査総合センターの創設記念講演会が開催されました。当センターはその前身機関である工業技術院地質調査所の業務を継承しており、本年は同所創立から120周年にあたるため、これを併せて記念する催しとなり、250名の参加がありました。

講演会は平石副理事長の開会挨拶に

始まり、経済産業省をはじめ、関連業界、学界からのご祝辞の後、米国地質調査所 Dr. J. Devine 上級科学顧問、中国地質調査所 Dr. Zhang Hongtao 副所長による記念講演が行われました。両調査所からは、両国における地質調査所の現状、世界における地質調査所の役割の変遷と今後の果たすべき役割、および日本への期待が述べられました。当センターからは最近の研究のトピックスとして、雲仙火山掘削の科学



的意義を紹介しました。それを受けて、島原市吉岡市長から、当センターによる調査観測活動への地元の期待の言葉が述べられました。



産技連第49回窯業部会総会

<http://unit.aist.go.jp/collab/collab-hp/wholesgk/sangiren/ceramics/index.htm>

6月13日(木)、14日(金)の両日、松山市のメルパルク MATSUYAMAにおいて、産技連第49回窯業部会総会が幹事機関の愛媛県窯業試験場の協力を得て、54機関、79名の参加のもと開催されました。総会に先立ち、前日の12日(水)には地域部会長会議が行われました。

総会では、愛媛大学逸見教授による特

別講演「リサイクル資源“人工ゼオライト”を用いる新しいゼロエミッション技術」で始まり、石炭灰活用による環境調和型の実施事例が紹介されました。続く審議事項では、陶磁器デザイン担当者会議併催の作品展「陶&くらしのデザイン展」が当分科会下部組織として、また、「陶磁器の評価法について」の新しい分科会の設置が承認され



ました。最後に討論「窯業産業の地域における活性化」は5地域の事例が紹介され、公設研の共同協力を推進する必要があるなど、活発な意見交換が行われました。



産技連第2回繊維部会総会

<http://unit.aist.go.jp/kansai/textile/>

6月6日(木)、7日(金)の両日、福岡市において産技連第2回繊維部会総会が40機関、約60名の参加のもと開催されました。

総会では、開催県の挨拶の後、中小企業庁沖田技術課長の挨拶と中小企業技術関連施策の重点の紹介、続いて産業技術関連予算の概要、産総研からの情報提供サービスについて、それぞれ説明がありました。平成14年度事業計

画では、繊維試験法分科会、素材・製布分科会、染色加工分科会、アパレル生産技術分科会、デザイン分科会の各事業計画のほか、「全国繊維技術交流プラザ」が10月に八王子市で開催されること、当部会として、ものづくり情報資産データベースの作成に取り組むことが承認されました。また、繊維など成熟産業に対する国の支援策(方法等)について質疑があり、提案・要望



を各地方部会で取りまとめ、10月の幹事会で議論することになりました。

翌日、現地研修として、久留米市にある株式会社ブリヂストン久留米工場を見学しました。



産技連第2回生命工学部会総会

<http://unit.aist.go.jp/collab/collab-hp/wholesgk/sangiren/life/index.htm>

6月5日(水)～7日(金)の3日間、にわたり、神戸市の楠公会館において、産技連第2回生命工学部会総会が開催され、65機関、約110名の参加を得、活発な意見交換を伴う熱気に満ちた総会となりました。

総会では、冒頭中村部会長から、バイオ産業振興の風を受けて、地域において産学官連携チームを結束させて競争的予算を獲得して行かなければならないとの力強い挨拶があり、経済産業省産業政策局の稲垣地域技術課長によ

る最新の地域技術政策の紹介、続いて、産総研産学官連携活動の紹介、関係ユニット代表による公設研との共同研究提案テーマの紹介がありました。協議事項として、平成14年度活動方針と計画提案が検討され、新規事業では、地域産業界のための地域講演会の開催が決定されたほか、出席者からホームページを活用した連携強化等の具体的な提案も出されました。次いでヤエガキ醗酵技術株式会社の永井専務取締役から「ヤエガキ醗酵技術における



機能性食品の開発」と題する特別講演があり、最後に各地域からの事例発表に対しては、公設研における技術ポテンシャル向上、ニーズ・シーズのマッチングおよび日頃の産学官連携ネットワーク構築が成功要因として総括されました。

お詫びと訂正 AIST Today 2002.07 (Vol.2 No.7) に誤りがありました。ここにお詫びして訂正いたします。

ページおよび記事

正

誤

12P 関連情報3行目 大久保 聡, 日経エレクトロニクス, No. 824, P.67, (2002). 村田和広, 日経エレクトロニクス, No. 824, P.67, (2002).